

区民会議・企画部会摘録

日 時 平成18年12月15日(金) 13時半～15時半

場 所 宮前区役所第4会議室

出席者 小林委員長、永野副委員長、浅野委員、鈴木恵子委員、目代委員、渡辺委員
原企画調整担当主幹、中山同主査、東同主査、成沢職員

開会

事務局

情報公開について

議事

(1) 各部会の審議状況報告

高齢者福祉部会 報告者：鈴木恵子委員

- ・ 各委員に書き込んでもらった議論シートを元に、「ご近所サークルの取組」から「地域高齢者を守る会議の設置」の項目まで議論をした。
- ・ 本日午前中会議を終えたばかりなので、まだ自分の頭の中でも整理ができていないが、地域に対し、今後どのような働きかけをするかが鍵になると思う。

小林委員長 ご近所サークルや出前講座について、細かい意見交換をした。薬の名前は明らかになっており、処方箋のおぼろげなところが出てきたという段階まで来ていると考えている。

子ども部会 報告者：目代委員

- ・ 目指すべき方向性として、「親は家庭においてしっかり子育てをする」「家庭における子育てを地域でサポートする」が出た。
- ・ 子どもと言っても乳幼児～青少年までであるが、今回は乳幼児の親子に重点をおいている。
- ・ 転入世帯が多い宮前区で、孤独な親子が多いことに焦点を当て、どのようなフォローができるかという視点から、「親子の居場所づくり」を中心に考えている。
- ・ 若い母親やキャリアの母親も多く、本などからの片寄った情報で子育てをしたり、人づきあいが少ないことがある。子育てサロン等の場の提供によって、同世代の赤ちゃんを初めて見たり、友達をつくるきっかけができれば良い。
- ・ 宮前区には現状で子育て支援センター4箇所、誰でも集まれる赤ちゃん広場が7箇所くらいあるが、空白地帯の問題があり、赤ちゃん広場の拡充等を提案したい。子育て支援センターでも土日開催など拡充を図りたい。園庭開放も拡充し、積極的な声かけを展開したい。
- ・ 子育てに関する情報が回覧などにあまり載っていないという指摘もあった。町会組織ももっと活用したい。
- ・ しつけなど、母親の家庭での育児力の強化もはかりたい。コミュニケーション不足に一因があると考えている。人と人とのコミュニケーションをつくりあげていくのが子育て支援だと思う。
- ・ 「集う場所ができる」というのは高齢者福祉部会と共通ではないか。
- ・ 公園デビューという言葉があったが、最近は公園で姿も見られなくなった。
- ・ 協議会の様な組織を立ち上げて、居場所づくりを地域で検討していきたい。
- ・ 既に活動している自主グループの母親達は、人数は少ないが活発にやっている。出前講座によるさらなる知識や交流の提供も行いたい。

小林委員長 保健所の検診を上手に利用した、情報の提供や発信、声かけができるのではないかと
いう提案も出ていた。

明日のコミュニティ部会報告 報告者：事務局（部会長が企画部会委員ではないため）

- ・ 地域のコミュニティという視点、区の将来像をみすえる視点、大きく二つの視点での議論があつた。
- ・ 第1回の部会で、「明日のコミュニティ部会」と名称を決定した。
- ・ 第1回では、コミュニティに対する問題意識を共通のものとして認識し、今後はコミュニティをどう形成していったらいいか検討を進めていきたい。

（2）意見交換

意見交換

浅野委員 ネットワークづくり、顔の見える関係づくりが、共通だ。しかしこれはすぐに実現できることではない。全体議論の中での課題解決以外に、緊急事項として何か取り上げられるもの、取り組みができるものはないか。

鈴木委員 明日のコミュニティ部会が、その部分を担うということではないか。コミュニティの問題解決を考える場であり、地域をうまくまとめていただけると、全部が機能するのかなと期待している。

永野委員 やはり地域のコミュニティが重要だ。ネットワークづくりをじっくりやるか、できることから取り組んでいくか。どちらか。

渡辺委員 高齢者福祉と子どもの部会の発表は同じと感じている。両方とも見守りだ。そこをうまく区民にも理解してもらえるまとめ方をしたい。

浅野委員 結局問題は、社会的弱者ということになるのではないか。

小林委員長 地域をどのようにグルーピングして、うまく情報を伝えるか。地域の声を聴くシステムづくりはすぐできることではないか。

目代委員 子ども部会ではアンケート調査を保健所の検診の場で実施して、今の母親が困っていることやニーズを集約したいという思いも意見として出た。

小林委員長 検診の時に情報を発信するのをもひとつのやり方。この時にアンケートもとり、友達づくりも一度にできないか。

浅野委員 今、検診はどのくらいの頻度で行われていて、どのくらい集まるのか？

目代委員 手元に資料がないが、乳幼児期間に何回かあり、受信率も高い。子育てサロンなどは積極的な母親でないとならないが、検診はみんなが集まる。虐待の問題なども検診などで見つかることが多く、そこを有効活用するのが一番良いと考えた。

鈴木委員 高齢者は検診が無い。どこかの地域で、地域の中で体力チェック、健康診断をやって180人ほど集まったというのがニュースになっていた。同じような場をつくり、更に隣で相談窓口を設置したり、介護保険などに関する総合的な講座や、体操の指導なども一度にやる。そんなメニューが展開できたら良い。次に行ったら、又会えるかしらという場にしたい。

出身地別の集まりなどができれば、非常に親しみやすく、有効なのではないか。

検診の場で「あなたの集まれる場所がこんなにあるよ」というリストを提供するようなしかけが有効だと思う。悩む前に一度やってみて、その反応を見て、足りないところを補ってあげたい。

目代委員 検診中のお母さん達に、子育ての不安を解消するような講座が展開できれば非常に良い。

お産の前の親子学級を受けるように、お産の後にも集まってもらって講座ができないか。

小林委員長 情報が必要な人に正しくいくかどうか、集まれる場所があるかどうか、コミュニケーションが進むかがどうか、共通の課題ではないか。

渡辺委員 母親は妊娠した時にかなり不安を感じている。生まれる前から生まれた後のことも、情報提供していくことも必要だ。

浅野委員 「子育て支援とことこ」にはかなり充実した情報が載っている。あの情報の見直しや、有効利用を考えてはどうか。

目代委員 あれは非常に充実しているが、子育て関係者以外はあまり、見たことがなく、知らない。あれの高齢者版が欲しいという声を何度か聞いた。

今後の進め方について

小林委員長 各部会から提案される解決策について、すぐできる事柄については、次回の区民会議で承認をして、区長にすぐ報告したい。積み残し部分についても、今年度中にできるだけまとめたい。

浅野委員 来年度は実行から評価までいけるとすごく良い。

事務局 高齢者福祉部会と子ども部会については、一定の報告ができと思っている。積み残しについては、年度内に第4回の区民会議の開催をし、それまでに各部会の議論をまとめあげていただきたい。明日のコミュニティ部会については、今年度中ではなく、委員の任期中に議論をまとめていく考えだ。

第3回区民会議（12月22日開催予定）の進め方について

小林委員長 各部会の報告は10分くらいということをお願いしたい。

報告後その内容についての意見を、時間があれば委員一人一人に聞いていきたい。発言しない方の無いようにしていきたいと考えているがどうか？

浅野委員 無理に全員に意見を聞くのではなく、挙手が少なければ、何人が指名するくらいで良いのではないか。

小林委員長 前は防災についてかなり時間を割いたが、今回は防災についての討議は第4回に回すので、少し時間があるかなと考えている。

事務局 全員に聞くのは時間的に厳しいと考えるが、部会の報告内容を承認するかどうかだけでなく、様々な団体から委員さんが出ていることを活かして、各組織の協力や担い手など現状を踏まえた意見を交換してほしい。全体会議で+ を加えて、区長に上げるのが理想だ。

最初の報告が合計30分、子ども部会と高齢者福祉部会の報告に対し、それぞれ1時間くらい議論をして、全体で2時間半程度という想定だ。

年度末に一括で報告するのではなく、まとまったものから報告していくという形でご了承いただきたい。

浅野委員 区民会議の第3回で報告した事項については、第4回ではその間の進捗状況等の報告も得られるのか？

事務局 今回は年末年始を挟むということもあり、時間的に厳しいとは思いますが、今後（第5回以降）はそうにしたい。

意見交換

小林委員長 ターゲットと上手に関係を作ってやっていかないと、うまくいかない。いろいろな組織が

ある。例えば自治会に関わるような提案が出てきたら、自治会の集まりにいきなり出てお願いやお話しをするというのは、失礼にはならないか？

渡辺委員 それは無いだろう。自治会も必要性は感じていると思う。例えば、高齢者の見守りでは、自治会も敬老会などやっているが、地域の高齢者の情報が把握しにくくなっており、非常に困っている。

浅野委員 以前回覧版をお願いした時に集合住宅など別々にお問い合わせが必要なことを知らなかった。

渡辺委員 集合団地だけで自治会を形成している地域や、5000 世帯ほどある大きな自治会までいろいろな自治会がある。

小林委員長 その団体の状況がわからないと、首の突っ込みようがない。

渡辺委員 定例自治会を開いていない所、回覧等を回すだけの所も沢山ある。あくまで「自治会」なので、あまり「ああしろ、こうしろ」とは言わずに、各組織にまかせている部分も大きい。

永野委員 明日のコミュニティ部会の中で、町会等の他組織とどう関わっていくのか、また、どのようなやり方を自治会等に望むかという話題が出てくるだろう。区民会議でこういう議論が出たので、協力していただませんかという投げかけはできると思う。

浅野委員 自治会の規模や活動状況が様々な中、新しい組織を考えなければならないのではないかとすることも。「こういう活動をしてはどうか」と働きかけても、規模などが適正でない自治会も多いのではないか。かといって市町村の様に自治会も合併などさせるのは現実的には難しいだろう。

渡辺委員 前回の区民会議でも話が出ていたが、例えば地域の防災の責任者は大体自治会長になっているが、数年で代わってしまう。これではいざという時にきちんとした対応が取れるのか、別働隊をつくらないといけないのではないか。30 人委員会は地域のいろいろな方が集まっていたが。

鈴木委員 特殊な例かもしれないが、野川では地区社協が 30 人委員会の様な組織になっている。町内会自治会関係者、地域の学校の先生、民生委員、保護者、自主活動団体、青少年関係者など様々な人が集まり、年五回の会合の他、交流会なども行っている。地域の中である程度の組織の長同士はみんな知り合いであり、何かをする時にはすぐにお問い合わせができる。野川地区全域に情報が回る。私はそれが当たり前だと思っていた。

目代委員 第 3 地区社協では、構成メンバーは一緒なのに、うまく動いていない。会合に来ない。野川は素晴らしい。野川を参考にしようとして話している。

鈴木委員 地区社協メンバーは民生委員で固められている地域が多いが、野川地区では小泉氏が地区社協の会長になった今から 8,9 年前に、まずこのメンバーをかえることから試みた。ある専門家に民生委員 = 地区社協は止めたほうがいいよと言われ、民生委員を外して、地域の活動団体などのメンバーを集めた。

目代委員 私も民生委員だが、地区社協の事業にもっと地域の町会や学校が野川のように入ってきてもらいたい。町会は総会のとみに来るだけで、結局動くのは民生委員で、すごく負担が大きい。民生の事業に加えて、社協の事業もこなしている状態だ。

永野委員 わたしは地区社協の理事になっているが、総会にしか行かない。声もかからない。

目代委員 もっと呼びかければいいのか？

鈴木委員 地区社協には本来地域の様々な団体が皆入っているので、そこがうまく動けばいい。

小林委員 どこがどうと文句を言っていたら、だめになる。野川で先例があるのなら、それに習ってやっていきたい。

浅野委員 明日のコミュニティ部会でぜひ検討していただきたい。

次々回（第4回）の区民会議の日程について

討議の結果、第4回の区民会議を2月の9日（金）か13日（火）の夜、18：00～開催することとした。どちらの日程にするかは22日の第3回の区民会議にて図る。

意見交換

小林委員長 NPO化の推進の視点が今後は必要なのかなと思っている。まちづくり協議会でも、お金集めの方法を考えたらどうかという意見があった。ハンガリーには、所得税の3%をNPOに使ってもいいというシステムがある。宮前区でもNPOを育てるための覚悟をして、何かできないか。

児童相談所が北のほうにできるという話もある。区民会議が市議員のようになってはやりすぎだが、「区役所の民営化など最近の流行は本当に時代にマッチしているのか」「安心・安全について徹底的に」など、区民会議の今後の課題、話題はたくさんある。来年度のテーマ等についても、考えや提案を今から意識しておく必要がある。アイデアなどもあればぜひお願いしたい。

区民会議は基本的には区民の意見の反映が目的であり、自分の個人的な意見より、区民の意見を反映することを忘れてはならない。区民からの声は役所には普段どのような形で入ってくるのか？

事務局 苦情は非常に多いが、意見は苦情ほど多くはない。区長への提案、市長への手紙などで入ってくるのが多く、それをまとめたデータがベースになるだろう。ある程度事務局で把握は可能だと思う。第4回の区民会議の前の企画部会では、新たな課題のことも議論いただくことになるだろう。

鈴木委員 様々な組織に関わる提案が出てくると思うが、他の組織でも同じようなことが話し合われていたり、同じようなアンケートが行われていることがある。それを合わせてまとめていくような作業がどこかでできないか。バラバラにやっている。

事務局 区民会議はまとめる場はないと考えている。それぞれの事業計画を評価するためのアンケートなどをやること自体考えられない。オーバーラップした計画がそもそもあることにも問題があるかもしれない。公的機関の連携をどうはかっていくかということはあるだろう。

小林委員長 区民会議としては、ともかく、目に見えるものを何かやりたい。評価されるかもしれないし、非難されるかもしれないが、注目を集め、批判ができれば甘んじて受けて、次のステップに行く。ともかくやる。批判にさらされることも大切。なんらかの成果、アクションを出したい。

（以上）